



発行／津山市ごみゼロ新聞編集委員会

TEL／0868-22-8255

平成23年度ごみ袋収入の使いみち

指定ごみ袋による「ごみ処理の有料化」は、ごみ減量・リサイクルを進めていた津山地域で平成9年8月から開始されました。加茂・阿波地域も、合併時に指定ごみ袋を統一し、実施しています。

有料化は、市民の皆さんにごみ処理に係る費用を一部負担していただくことで、ごみ処理にはお金がかかることを意識し、ごみ減量や資源の活用に協力していただくことを目的に実施しています。その収益は、循環型社会推進のための事業などで、皆さんに直接または、間接的に還元しています。

平成23年度の指定ごみ袋収入は、約1億2千万円でした。この収入から、必要経費（指定ごみ袋の製造費、取扱店手数料、配達などにかかる費用）を差し引いた収益金を、平成23年度の津山・加茂・阿波地域のごみ減量やリサイクルの費用に使っています。主な内容は次のとおりです。

平成23年度指定ごみ袋収入 1億2,254万円

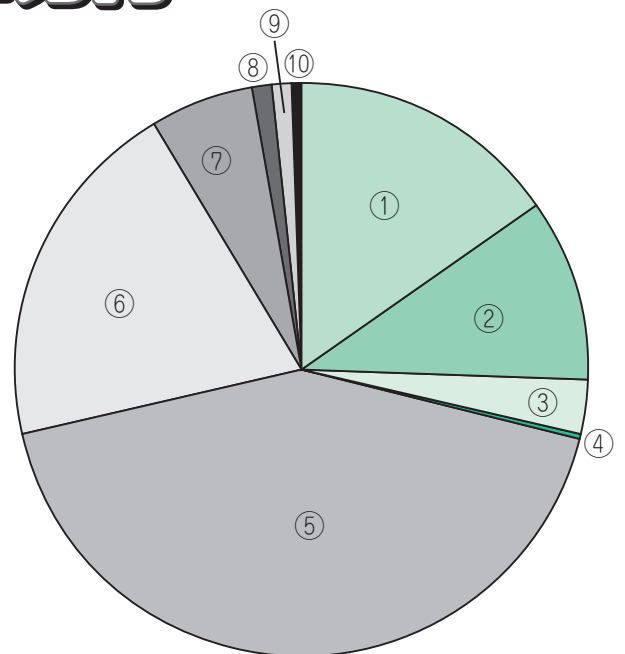
《使途内訳》

必要経費 3,572万円 29.1%

① ごみ袋の製造費	1,871万円	15.3%
② 取扱店手数料	1,279万円	10.4%
③ 配送関係費	373万円	3.0%
④ 事務費	49万円	0.4%

収益充当事業 8,682万円 70.9%

⑤ リサイクル関係費（※1）	5,202万円	42.5%
⑥ 報奨金（※2）	2,428万円	19.8%
⑦ くるくる運営経費	731万円	6.0%
⑧ 生ごみ処理機器補助金	144万円	1.2%
⑨ 環境啓発（ごみゼロ新聞など）	117万円	1.0%
⑩ 環境基本計画推進事業費	60万円	0.4%



※1 リサイクル関係費：「プラ」「ペットボトル」などを資源化するための経費です。

※2 報奨金：資源回収や町内リサイクルに対する助成金です。

ちなみに、ごみ処理にかかっている全体の経費は、上記の①～⑩も含めた収集運搬から中間処理、最終処分まで、約13億8千万円（平成23年度）となっており、指定ごみ袋収入はその約1割をまかなっています。

レポート：地域で取り組む生ごみ処理

ごみ減量を考えるとき、可燃ごみの約3割を占める生ごみの減量が重要になります。

生ごみを減らす方法としては、①調理くずを減らす ②食べ残しをしない ③水切りを十分に行う ④堆肥化するといったものがあります。

今回、ごみゼロ新聞調査隊は、平成24年9月から地域でボカシを使った生ごみ処理を始めた事例を紹介します。

近長下地内7戸の代表の姫田さんにお話を伺いました。

この取り組みを始めたきっかけは？

ごみステーションの可燃ごみの中に生ごみが多く出ている状況を見て、減らしたいと思いました。

そんなとき、以前から地域でグループを作り、ボカシを使った生ごみ処理をされている方から、ごみ減量やできた堆肥が土作りによいという話を聞いて興味を引かれました。

その後、平成23年7月に市が「ボカシ作り教室」を開催したので参加しました。

実際にボカシを作り、生ごみ処理の仕方を講師から学ぶと、ボカシで生ごみ処理を行い、できた堆肥を土作り・野菜作りに活用したいと思いました。



生ごみにボカシを振りかけ、ふたを閉めます。

地域でどのように取り組みを始めましたか？

同じような考えをもった近所の7世帯に話をし、やってみることになりました。

まず、市環境事業所が講師を派遣してくれる生ごみ・紙ごみリサイクル教室を申し込み、みんなで勉強することにしました。



申込書1枚を提出しました

それから、市と日程調整を行い、開催日を決めました。



生ごみ・紙ごみリサイクル教室当日の様子

当日は天候にも恵まれ、みんなで楽しくボカシ作りができました。

当日のボカシ作りに必要なバケツ等道具や籾殻・米ぬか等材料は、みんなで持ち寄り、たらい等足りないものは市から借りました。

その後はいかがですか？



できたボカシで生ごみ処理を進めています。生ごみのごみ出しの手間がなくなりました。

効果を実感し、みんなやる気になり、その後2回目のボカシ作りを10月に行いました。

講師の方に
相談し助言を
もらった
そうです

しかし、気温が下がっていたためか、思っていたように発酵が上手く進まず、保温に苦労しました。

ボカシ作りのおかげで、みんなが楽しく集まる機会にもなり、良かったです。



今後の目標は？



ボカシ処理でできた堆肥を活用して、野菜の有機栽培に取り組みたいです。

実践して良い結果を出して、アパートなどに住む近所の人にも広げたいと思います。



発酵が進み、倉庫に密封して保存

ボカシは暖かいうちに作っておく方がよいと思いました。



ボカシ処理後、畑に順々に入れています。白菜もよく育っています。

生ごみの堆肥化処理は、今回紹介の事例を見ていただいたように、ちょっとした準備で取り組みます。皆さんの実践は、ごみ減量や循環型社会の形成だけでなく、食育推進にも効果が期待されます。ぜひ挑戦してみてください。

memo

生ごみ・紙ごみリサイクル教室

家庭でできる生ごみの堆肥化やボカシの作り方等について、市が専門の講師を派遣します。

※参加予定人数20名以上

※講師料は市が負担します

※開催日時は講師の方の都合等で調整させていただきます。

連絡先：環境事業所 Tel22-8255

ボカシとは？

米ぬか・粉殻をEM菌で発酵させたものです。ボカシは、生ごみを発酵させ、堆肥化を促進します。

ボカシ作りのポイント

微生物が活動・増殖するためにはある程度の温度が必要です。冬季は加温しないと発酵が十分に進まない場合があります。春から夏季に作っておく方が良いです。

◆「つやまエコシステム」9周年キャンペーン報告◆



160名が当選しました ～応募総数6,836枚～

「つやまエコシステム」は昨年10月に、9周年キャンペーンを実施しました。期間中、協力★加盟店で景品と交換されたエコカード、6,836枚から抽選を行い、当選者160名に、商品券を発送しました。（発送11月19日）

【商品券】 1等 5,000円…10本 2等 1,000円…50本 3等 500円…100本

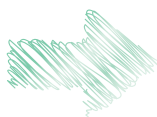
「つやまエコシステム」とは、

買い物の際にレジ袋を断ると、エコシールが1枚もらえる「マイバッグポイント制度」のことです。市内のスーパー、コンビニなど71店舗が協力加盟店になっています。シールを集めると、景品（指定ごみ袋やトイレトペーパー）と交換、または、店頭「寄付ボックス」に入れると、エコカード1枚（エコシール10枚貼付）につき、20円が（財）日本ユニセフ協会に寄付されます。

レジ袋の辞退でどうなる？

一般的に国民1人あたり年間約300枚のレジ袋を使っていると言われています。

レジ袋1枚
約10gとすると…



レジ袋を1人あたり年間約3kg消費
(1人1日あたり 約8g消費に相当)

また、

津山市では約3割の人がレジ袋を辞退していると言われています。 ※ごみゼロ新聞編集委員会での調査結果

単純計算では、人口10万人とすると、レジ袋の辞退で約3万人×3kg＝約90t（年間）のごみ抑制につながっていると言えます。

津山市では、ごみの減量目標を定め、その達成に向け、皆さんにご協力をお願いしております。レジ袋の辞退もその助けになります。

津山市ごみ減量目標:平成28年度までに 1人1日あたり約60gの減量!

情報掲示板

第45回 ガレージセール

と き：5月12日(日) 午前10時15分～午後2時

場 所：ソシオ一番街他商店街一帯

連絡先：ソシオ一番街事務局 Tel.22-7654（午前10時～午後4時 日・火は除く）

＜報告＞第4回 チャリティーマーケット ～被災地に届け！津山からのエール！～

去年11月25日に美作大学において開催されましたチャリティーマーケットでは、売上金の一部と募金を合わせて、約15万円の寄附金が岩手県大槌町へ、当日寄せられた応援メッセージと千羽鶴は岩手県大槌中学校へ送られました。チャリティーマーケットは春・秋の2回、被災地への継続的な支援として今後も開催される予定です。

ごみゼロ新聞へのご意見・
ご要望をお寄せください。

『津山市ごみゼロ新聞編集委員会』

津山市環境事業所 Tel 22-8255 Fax 23-7055

E-mail:gomizero@city.tsuyama.okayama.jp

